

2. 棚田地域の総合保全対策事業

しが棚田ボランティアの実施状況

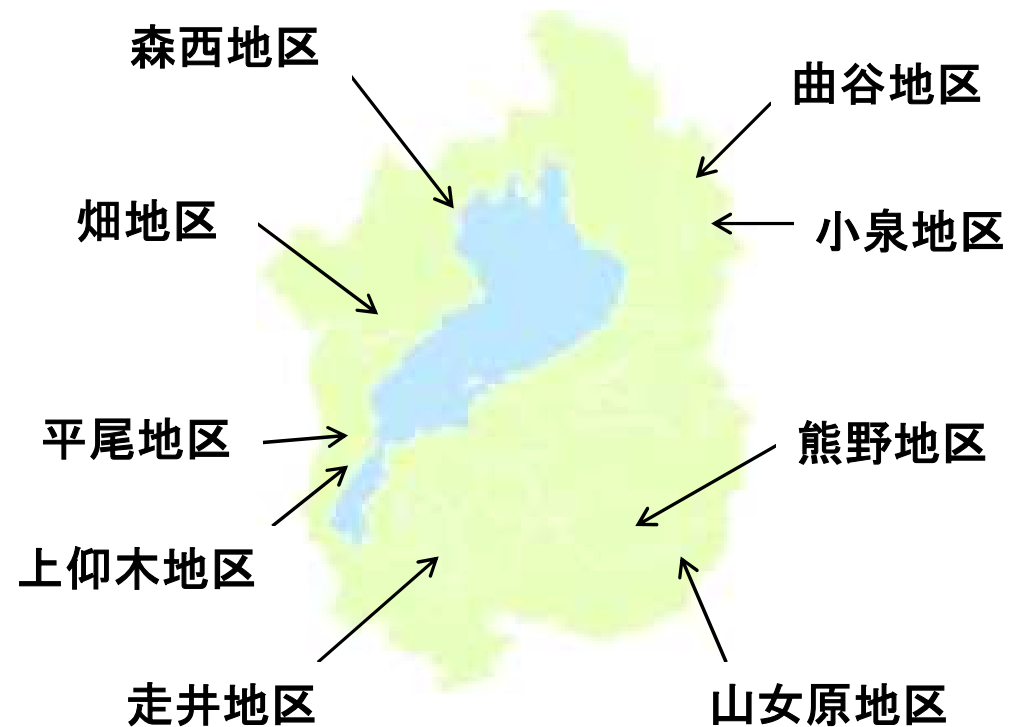
○棚田ボランティア受入地区

(9地区)

- 平尾地区 (大津市) H16～
- 曲谷地区 (米原市) H18～
- 畑地区 (高島市) H18～
- 熊野地区 (日野町) H20～
- 上仰木地区 (大津市) H21～
- 森西地区 (高島市) H24～
- 山女原地区 (甲賀市) H24～
- 走井地区 (栗東市) H26～
- 小泉地区 (米原市) H26～

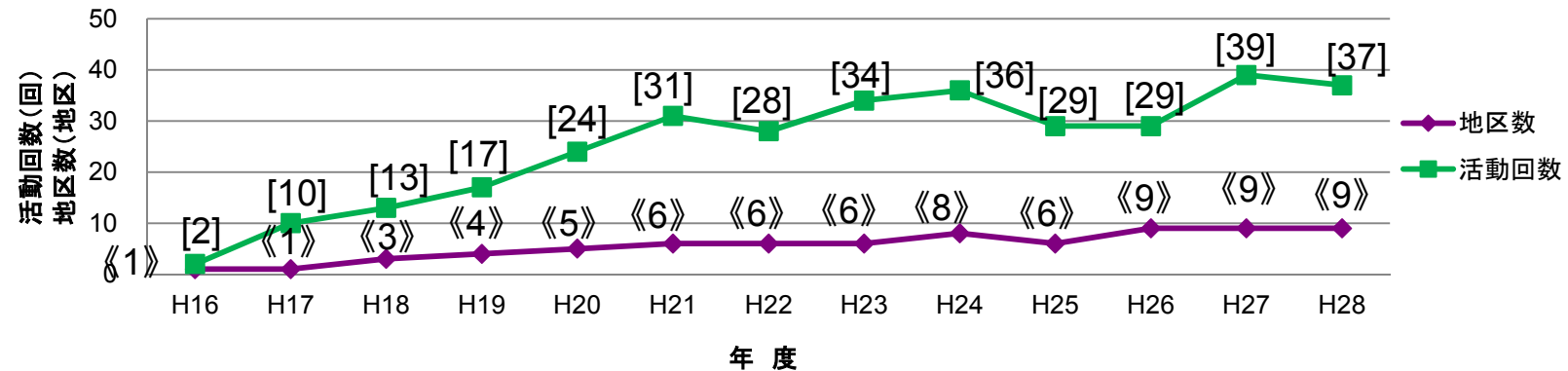
<完了地区>

- ・ 大河原地区 (甲賀市) H19～24

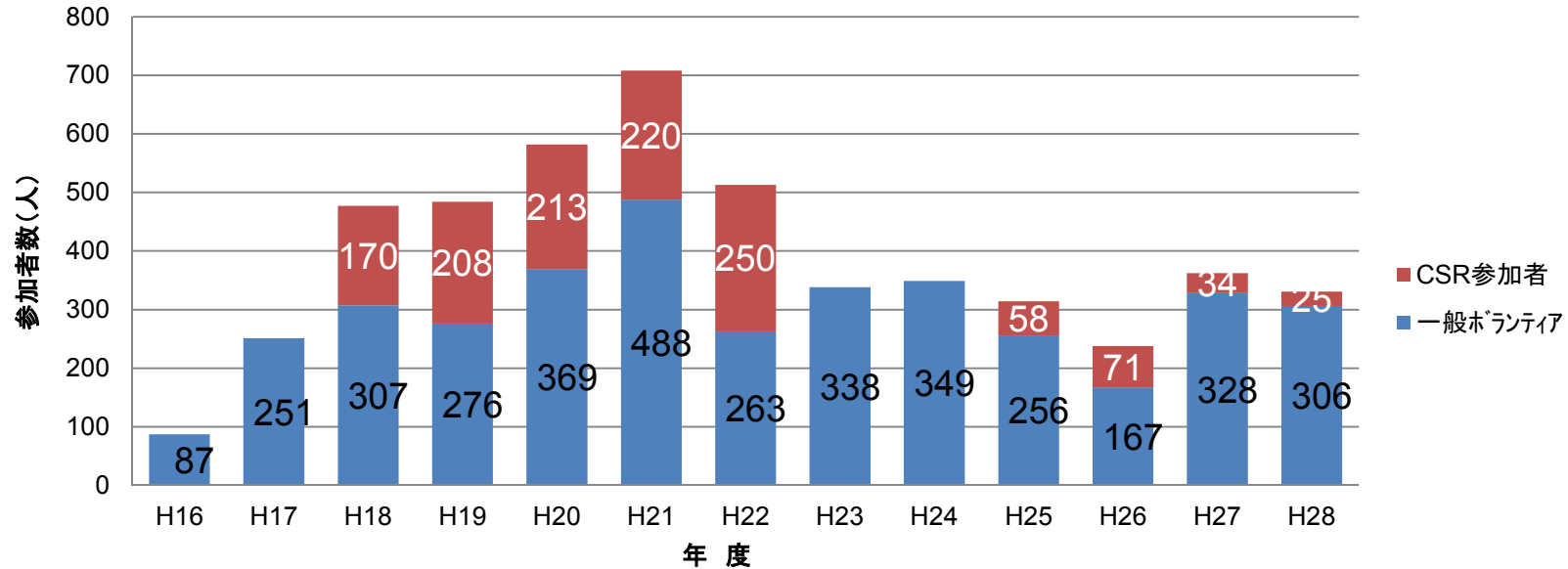


棚田ボランティア活動回数および参加者数

棚田ボランティア活動回数



棚田ボランティア参加者推移



H27…9.3人 H28…8.9人 2

平成29年度事業の計画

3. ふるさと・水と土保全対策事業

調査研究事業

○中山間地域現状調査(12集落等)

推進事業

- ふるさと・水と土保全対策推進懇話会(2回予定)
- 人と地域が織りなす滋賀の農業・農村活力創造プロジェクト
(余呉町片岡南部地区の支援)
- 普及啓発
 - ・ホームページ、フェイスブックによる情報発信

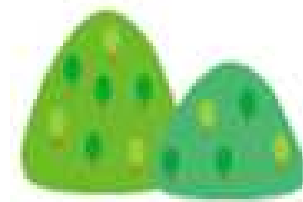
3-1.平成29年度 中山間地域現状調査 (H29)

中山間地域の多面的機能

中山間地域は水源涵養、洪水の防止、土壌の浸食や崩壊の防止、良好な景観の保全、保健休養の場の提供、生き物のすみかになる機能などの多面的機能によって、都市住民を含む多くの県民の財産、豊かな暮らしを守っている

現状と課題

県内の中山間地域は人口減少、高齢化の進行、担い手不足により集落機能の低下、多面的機能の維持が困難になってきている。また、全国的に耕作放棄地の面積が拡大しており、早急な対策の検討が必要である



背景(地域の声)

現状・課題を調査



○獣害対策を何とかしてほしい ○米価の低迷を何とかしてほしい ○高齢化で耕作を続けることが困難 ○地域活性化のためには都市住民との交流が必要である

①地域住民へのアンケート(ヒアリング)調査
」(12集落等)

(H28, 29で全36集落等を調査)

②アドバイザーとの集落調査・助言・資源マップの作成
(3集落等)

(H28, 29で全6集落等を調査)

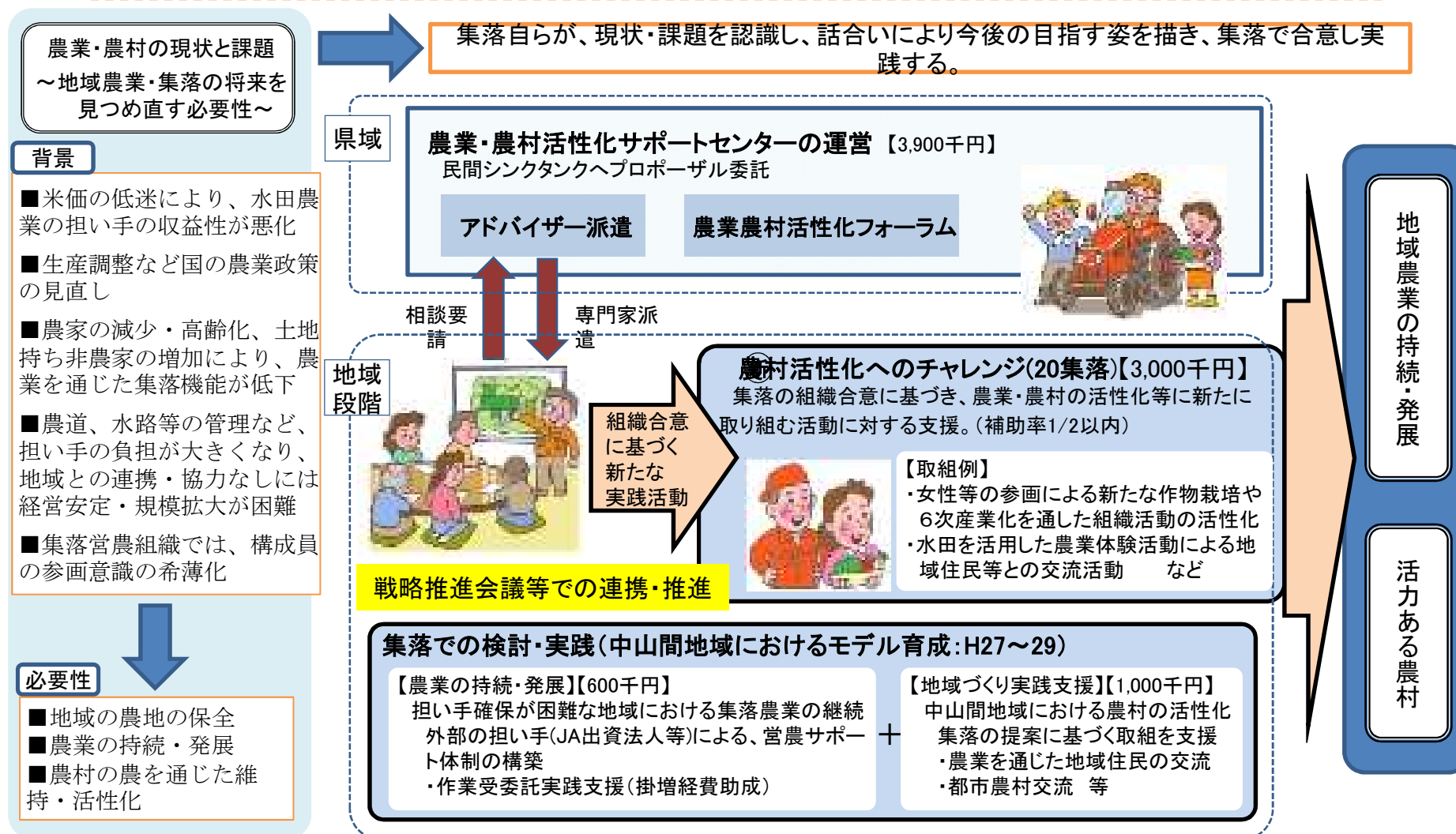


集落で発生している問題、集落単独では維持が困難な活動、暮らし向き、住民の意識、重要と考える施策等、現状・課題を調査

地域の課題・危機感の共有化、地域の誇りや自慢につながる資源の確認・発見。また、資源マップを作成するとともに土地利用計画を図り、今後の対策の基礎資料とする

3-2.「人」と「地域」が織りなす滋賀の農業・農村活力創造プロジェクト(H29)

水田農業を取り巻く状況が大きく変化する中で、地域農業の持続・発展と活力ある農村づくりを進めるため、地域農業戦略指針に基づき、集落における地域農業や農村の発展・活性化に向けた話合いや実践活動が進むよう、農業・農村活性化サポートセンターによる支援など、県・市町等関係者が一体となった集落への推進・支援活動を展開する。H29は農村活性化へのチャレンジを行う組織に対して、実践活動への支援を充実する。



- ・ 池原地区 棚田ボランティアの取組
第1回（H29. 7. 8）



3-3. 普及啓発

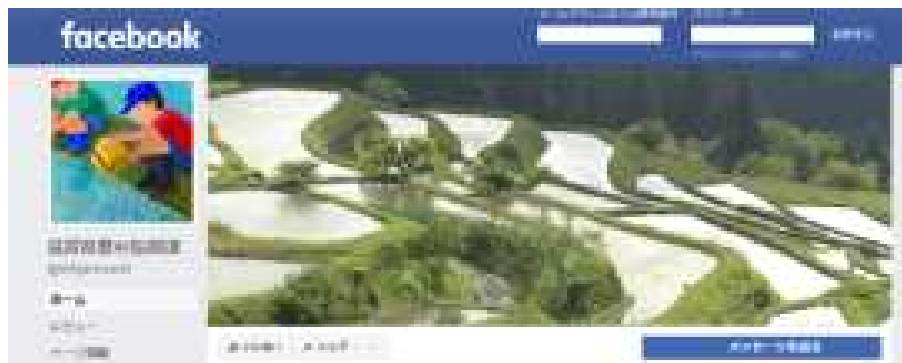
①体験情報発信サイト「田舎体験しが」の運営

- ・都市農山漁村交流を促進し、農山漁村地域の活性化を図ることを目的に、インターネット上で関連情報を公開するための環境を提供するウェブサイト
- ・今年度より当課ＨＰで公開
- ・関西広域連合が作成するＨＰとの連携



①フェイスブックによる情報発信

- ・SNSによる情報発信



4. 棚田地域の総合保全対策事業

新・新たな取組

1. 棚田ボランティア活動の推進

- ・新規活動組織の掘り起し
- ・ボランティア参加(希望)者への研修

2. しが棚田地域交流・研修会の実施

- ・活動組織とボランティア参加者等との交流、意見交換の推進・・・1回開催予定

3. 都市農村交流の推進

- ・活動地域の地域資源を生かした催しの推進・支援

4. 企業・大学との連携、参画の推進

- ・企業CSR活動による棚田保全の推進
- ・企業・大学との包括的連携協定に棚田保全・ボランティアを積極的に位置づけ
- ・学生ボランティアの参加者増、1日体験プログラムの支援

5. しが棚田トラスト制度の推進

- ・新たな寄附特典の実施、付加による寄附者、金額の増 **新**

6. 新たな棚田保全活動の仕組みづくり

- ・企業やグループ等と活動組織をコーディネート、マッチングする仕組みの検討 **新**

7. 情報発信の強化

- ・農村振興課フェイスブック等SNSの活用 **新**
- ・活動案内のチラシ配布、農村振興課ホームページ掲載
- ・メールマガジンによる棚田地域の魅力発信